

医師・看護師・介護職員的大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 62 号

2010年2月15日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

看護・介護職員全国交流集会に435名 誇りをもって働き続けられるために、大きな運動を



2月13～14日、大阪・ホテルコスモスクエア国際交流センターで開催した「2010年看護・介護職員全国交流集会」には435名（7全国組合・39県医労連）が参加しました。

田中千恵子委員長はあいさつで、「看護・介護の仕事について私たちは幸せ者、こんなに人の役に立って喜ばれる職業はない、21世紀の花形産業、働き続けられる条件を作っていこう」と呼びかけました。

記念講演は、川嶋みどり日本赤十字看護大学看護学部長が行い「時代の転換点のいま、看護・介護の原点を考える」と題して、患者・利用者が「その人らしく生きていくことを積極的に支援する」

私たちの「手」＝「テア～テ(手を当てて看護・介護することの表現)」の重要性を強調されました。看護職からは「原点に戻って元気になる」、初めて川嶋先生の話聞いたと言う介護職からも「介護の原点を学んだ。職場の仲間に伝えたい」等々の感想が寄せられました。

基調報告は、中野千香子中央執行委員が行い、社会的役割が高く求められているのに、働き続けることが困難で離職率が共に高い看護・介護職員の処遇改善のために、2010年春闘は、①大幅賃上げ、②大幅増員と法改正、③長時間労働・夜勤の規制、④労働環境改善、⑤教育・研修の公的保障を重点に、組織拡大とたたかう体制を作って頑張ろうと提起しました。

特別報告を、全日赤高松、北海道医労連、東京医労連、広島県医労連が行い、組織拡大を進めながら増員・労働条件改善の粘り強い取り組み等々が報告され、参加者に元気と感動を与えました。

14日は、8つの分科会・分散会に分かれて、運動の交流と2010春闘の取り組み等々の討論を行いました。新しく作成した「ILO看護職員条約・夜業条約」リーフや、春闘パンフを活用して大いに学び、2010春闘の先頭に看護・介護労働者がたとうと意思統一、元気のでの集会となりました。

*「ILOリーフ」は各加盟組織に、組織数の約半分強でお送りしました。ご活用下さい。



トピックス

2月12日答申された、2010年度診療報酬改定の「付帯意見」16項目の中に「**看護職員**の厳しい勤務実態等を十分把握した上で、看護職員の配置や夜勤時間に関する要件の在り方を含め、看護職員の負担軽減及び処遇改善に係る措置等について、検討を行うこと」が付記されました。